

VII そ の 他

VII その他

1 平成28年度施設見学者数

区分 月	行政視察		一般団体 ・個人		小学校		合計		備考
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	
4	1	17	2	16	1	44	4	77	
5	0	0	2	16	1	47	3	63	一般団体・個人 福島市政見学会 13人
6	0	0	2	541	24	1,241	26	1,782	一般団体・個人 水道週間来場者 (6月4日 211人、6月5日 280人)
7	1	15	1	7	10	545	12	567	
8	0	0	1	5	0	0	1	5	
9	0	0	2	19	12	785	14	804	一般団体・個人 福島市政見学会 10人
10	1	21	6	111	8	386	15	518	行政視察 全国水道企業団協議会 東北地区協議会 21人
11	0	0	0	0	2	33	2	33	
12	0	0	0	0	0	0	0	0	
1	0	0	0	0	0	0	0	0	
2	0	0	0	0	0	0	0	0	
3	0	0	3	43	0	0	3	43	
合計	3	53	19	758	58	3,081	80	3,892	
平成27年度 実績	8	66	17	665	67	3,142	92	3,873	



平成28年6月4日～5日 水道週間イベントの様子

2 災害対応等について

(1) 災害対応

災害発生の年月日	災害の種類	災害の規模	企業団の対応
平成28年7月～8月	渇水	例年にないダム貯水率の低下 最低貯水率44.9% (8月16日)	排水クローズド運転の実施、 臭気試験の回数増 取水制限には至らず、水質等 にも影響はなかった
平成28年11月22日	地震	午前5時59分頃 福島県沖 深さ約25km M7.4 震度5弱 国見町 震度4 福島市、二本松市、伊達市、桑折町、川俣町	災害対策本部継続設置中 第2次配備体制 点検の結果、異常なし
平成28年12月28日	地震	午後9時38分頃 茨城県北部 深さ約10km M6.3 震度4 国見町 震度3 福島市、二本松市、伊達市、桑折町、川俣町	災害対策本部継続設置中 第1次配備体制 点検の結果、異常なし
平成29年2月28日	地震	午後4時49分頃 福島県沖 深さ約50km M5.6 震度4 二本松市、伊達市、桑折町、国見町、川俣町 震度3 福島市	災害対策本部継続設置中 第1次配備体制 点検の結果、異常なし

(2) 訓練

訓練年月日	訓練名称	訓練内容	参加人員
平成28年10月18日	消防訓練	①総合訓練(通報訓練、避難誘導訓練等) ②機器操作訓練等(消火器操作、起震車体験等)	企業団職員22名 運転管理業務受注者6名 ほか関係職員7名
平成28年11月16日	防災訓練	①企業団職員参集・安否確認訓練 ②災害対策本部設置・運営訓練 ③被害調査及び情報伝達訓練 ④応急給水訓練	企業団職員25名 運転管理業務受注者10名 構成団体の関係職員各1名

(消防訓練)



消火器操作訓練状況



起震車体験

(防災訓練)



災害対策本部設置・運営訓練状況



応急給水訓練状況

3 主な行事

番号	年 月 日	件 名	場所等	出席者
1	平成 28. 4. 21 ～ 4. 22	全国水道企業団協議会東北地区協議会第42回幹事会及び第23回総会	岩手県奥州市	関係職員
2	28. 4. 26	日本水道協会福島県支部第62回総会	郡山市	関係職員
3	28. 4. 27	例月出納検査(3月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか
4	28. 5. 18	第1回事業運営検討委員会	福島市中央学習センター	委員ほか
5	28. 5. 26 ～ 5. 27	全国水道企業団協議会第60回総会	北海道千歳市	事務局長
6	28. 6. 2	例月出納検査(4月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか
7	28. 6. 4 ～ 6. 5	水道週間イベント(すりかみ浄水場特別公開)	すりかみ浄水場	全職員
8	28. 6. 6	企業団創立30周年記念座談会	すりかみ浄水場	事務局長ほか
9	28. 6. 30	第2回63協定のあり方検討委員会	福島市中央学習センター	委員ほか
10	28. 7. 1	例月出納検査(5月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか
11	28. 7. 27	例月出納検査(6月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか
12	28. 7. 31	第10回摺上川ダム茂庭っ湖まつり	摺上川ダム周辺	関係職員
13	28. 8. 9	企業団理事会	A・O・Z アオウゼ	企業長ほか
14	28. 8. 30	8月企業団議会定例会	すりかみ浄水場	企業長ほか
15	28. 9. 2	例月出納検査(7月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか
16	28. 9. 16	出納取扱金融機関検査	東邦銀行	関係職員
17	28. 9. 28	例月出納検査(8月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか
18	28. 10. 16	第15回摺上川ダム森づくり大作戦	摺上川ダム直下	関係職員
19	28. 10. 18	消防訓練	すりかみ浄水場	全職員
20	28. 10. 25	例月出納検査(9月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか
21	28. 10. 27 ～ 10. 28	全国水道企業団東北地区協議会第31回連絡会議及び第20回研修会	ホテル福島グリーンパレス	事務局長ほか
22	28. 10. 31	第3回63協定のあり方検討委員会	コラッセふくしま	委員ほか
23	28. 11. 8 ～ 11. 11	日本水道協会平成28年度全国会議	京都府京都市	関係職員
24	28. 11. 16	防災訓練	すりかみ浄水場	全職員
25	28. 12. 2	例月出納検査(10月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか
26	28. 12. 15	普通救命講習会	すりかみ浄水場	関係職員
27	28. 12. 26	第4回63協定のあり方検討委員会	ラコパふくしま	委員ほか

番号	年 月 日	件 名	場所等	出席者
	平成			
28	29. 1. 10	例月出納検査(11月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか
29	29. 1. 30	例月出納検査(12月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか
30	29. 2. 6	企業団理事会	ホテル福島グリーンパレス	企業長ほか
31	29. 2. 16 ～ 2. 17	全国水道企業団協議会東北地区協議会第43回幹事会	宮城県石巻市	関係職員
32	29. 2. 20	2月企業団議会定例会	すりかみ浄水場	企業長ほか
33	29. 2. 28	例月出納検査(1月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか
34	29. 3. 28	例月出納検査(2月分)	すりかみ浄水場	監査委員ほか



平成28年7月31日 第10回摺上川ダム茂庭っ湖まつり



平成28年10月16日 第15回摺上川ダム森づくり大作戦

企業団創立30周年記念座談会

当企業団は、平成28年6月6日に用水供給事業の経営認可日（昭和61年6月6日）からちょうど30周年を迎えた。この節目を記念し、企業団の歴史を知るOB職員の方々から創設時の思い出を語って頂き、企業団事業の原点から未来に続く企業団について考えを深める機会として座談会を開催した。

【座談会出席者 企業団OB職員】

佐藤 利紀氏(83)

当時 企業団参事兼事務局長



佐藤 利紀氏



丹治 章夫氏

丹治 章夫氏(79)

当時 企業団工務課長

渡辺 章氏(76)

当時 企業団工務課工務係長



渡辺 章氏



松永 芳元氏

松永 芳元氏(75)

当時 企業団庶務課庶務係長

【企業団職員参加者11名】

(事務局長、次長兼施設管理課長、総務課長、以下関係職員)



座長 事務局長 今泉 繁

【座談会の日程】

第1部 すりかみ浄水場 施設見学

～ 会食・歓談 ～

第2部 座談会

①DVD視聴(暫定供給時の内容)

②座談会

- ・苦勞されたこと
- ・企業団に期待すること など

第1部 施設見学の様子



パネル説明(管理本館内)



施設見学(ブロック形成池)



施設見学(建屋内パネル説明)



施設見学(急速ろ過池)



施設見学(浄水機器設備の説明)



記念写真(表洗水槽前)

第2部 座談会の様子



【座談会での主な発言】

- ここにいる企業団OB職員はみな企業団創設、摺上川ダム建設事業に携わってきた。
- 昭和40年前後の町村合併では水道整備が条件であり、岡部など未普及地区が多く水源が不足であった。地下水拡大も地域の理解を得られず、国及び県に対して「摺上川」への「ダム建設」による新規開発の必要性を陳情した。
- 県をとおしてダム参画水量をまとめるのに苦労した。最終的に249,000m³で厚生省認める。
- 厚生省へのダム参画水量資料提出のため、県北水道用水供給事業基本計画調査を実施した。現在と違い、水需要は右肩上がりの時代で、各構成団体の首長は、将来の市町の発展を図るうえで、水道用水の確保は重要であり、水需要は増加するものとして要望水量をとりまとめた。結果、数字の積上げ290,200m³で持っていくが、厚生省が難色を示し、最終的に249,000m³となる。各市町との協議に基づき費用を算定。厚生省は受水箇所を1団体1箇所との指導。結果、福島市3箇所、他は1箇所で認可することとし、増やす場合は認可分以降の扱いとした。
- 既存管を活用して送水管路のループ化の実現を幅広く検討されたい。
- すりかみ浄水場施設の用地決定にあたっては、摺上川ダム直下案は勤務に厳しく、穴原の下流取水案も困難で、最終的に現在地の飯坂町沼ノ上地内に導水トンネルを引くこととなる。万が一に備えて、導水トンネルに隔壁を設けた。
- 将来的に企業団には末端供給まで期待する。水道が人間の生活において必要不可欠なライフラインである以上、どの地域でも同一料金、同一サービスを目標とする考えが望ましい。

【座談会を終えて、企業団として】

「飲水思源（いんすいしげん）」物事の基本を忘れてはいけない。また、先人の恩を忘れてはいけないという戒めの言葉。社会情勢が変わっても24時間やすむことなく安全・安心な水道水を送り続けるという基本を忘れないこと。水道を取り巻く環境は大きく変化しているが、住民生活を支えるライフラインとしての水道システムを、より健全な姿で次世代に引き継いでいく、私たちの使命の重さを再認識することができた。

